

(一社) 日本歯科技工学会 第38回学術大会の見どころ・聴きどころ

(一社) 日本デジタル歯科学会後援

大会長 末瀬一彦

平成28年9月10日(土)～11日(日)に改装された奈良春日野国際フォーラムー豊(I・RA・KA)ーにおいて第38回日本歯科技工学会学術大会を開催させていただきます。2013年に法人化され、新たにスタートした本学会もデジタル技工の急速な進展に歩調を合せ、若い世代の会員獲得に向けて種々な取り組みが行われてきました。本学術大会においても「デジタル歯科技工の真髓」をテーマに多くのトレンドな講演を企画しています。

特別講演においては、デジタル医療の世界的権威であられる九州大学の橋爪 誠先生にお願いして、「ここまで進化しているデジタル医療の現状」について生々しく語っていただきます。教育講演では、補綴装置の多くがCAD/CAMテクノロジーによって製作されていることから、現在適用されている新素材の特徴や使用上の留意点などについて伴 先生にご教示いただきます。歯科医療現場の根幹をなす教育セミナーでは、大学や歯科技工士学校で実践されているデジタル歯科医療の教育内容について宮崎、大木、中野田の各先生方に情報提供をしていただきます。また、企画シンポジウムとして臨床現場の第一線で活躍されておられる木村、樋口、十河の各先生方からCAD/CAMテクノロジーの進化、3Dプリンターの実例、インプラントデジタル技工などの最新情報をご提供いただきます。今回はじめて企画しました若手シンポジウムでは日ごろ教育、研究、臨床でご活躍中の木原、上條、瓜生の各先生方から現在取り組んでおられる歯科技工をベースにした研究成果の一部をご披露いただきます。認定士・専門士講習会では、田上先生に研究の在り方やまとめ方について歯科技工を科学的に追及するノウハウをご教示いただきます。一方、ポスター発表約70演題、テーブルクリニック・デモンストレーション15演題のエントリーをいただき、恒例の学生テクニカルコンテストも企画しています。さらに、学会を根底から支えていただきます賛助企業からも43社50コマの展示をいただきます。まさに大会テーマ「デジタル歯科技工の真髓」にふさわしい内容の企画を準備しています。

日本の歯科技工は先達の経験による「匠の技」で支えられてきましたが、現在は、デジタル化が進み、常に安定的に高品質な補綴装置や矯正装置などが製作できるようになってきました。日本の歯科技工が世界に発信していただくためにもこれまでの伝統的な技能とともに斬新なデジタル機器によって効率的に、最高級の装置を国民に提供していかなければなりません。今回の学会は学術大会開催史上初めての古都奈良での開催です。まさに伝統的な技と新しい技術の融合が行われようとしている現在の歯科技工分野にふさわしい会場です。

春日野国際フォーラムは、厳かな「能楽ホール」をメイン会場に設定し、コンパクトに設計された会議室やレセプションホールを機能的に使用し、改装された渡り廊下を隔てた棟で懇親会も予定しています。

奈良は、古来日本酒の発祥の地でもあり、多くの酒蔵があります。お酒に興味のある人はもちろん、あまり興味のない人も多種多彩な味の奈良漬をお楽しみください。会場に隣接した東大寺には大仏殿が控え、751年聖武天皇の発案によって建立されたこの盧舎那仏は、宇宙の真理を体得された釈迦如来の別名で、世界を照らす仏・ひかり輝く仏の意味で、左手で宇宙の智慧を、右手に慈悲をあらわしながら、人々が思いやりの心でつながり、絆を深めることを願っておられるそうです。今回の学術大会によって皆様方との出会い、つながりを大切にしたいと思います。